(19) 日本国特許庁(JP)　(12) 公開特許公報(A)　(11) 特許出願公開番号
特開2005-296694
(P2005-296694A)
(43) 公開日　平成17年10月27日(2005.10.27)

(51) Int.Cl.⁷	F I		テーマコード（参考）
B07C 7/04	B07C 7/04		2B104
A01K 61/00	A01K 61/00	D	3F079
B07C 1/10	B07C 1/10		

審査請求 未請求　請求項の数 5　OL　（全 14 頁）

(21) 出願番号　特願2004-97999 (P2004-97999)
(22) 出願日　平成16年3月30日 (2004.3.30)

特許法第３０条第１項適用申請有り　２００４年（平成１６年）２月１６日の「北日本新聞（夕刊）」に発表

特許法第３０条第１項適用申請有り　２００４年（平成１６年）２月１７日の「北日本新聞」に発表

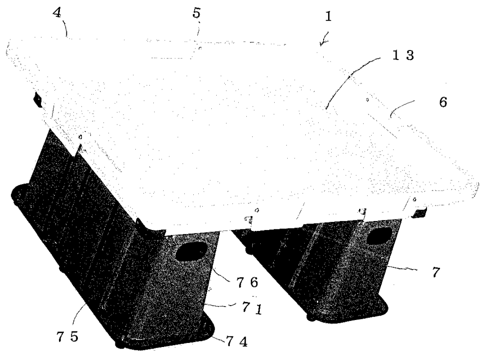
特許法第３０条第１項適用申請有り　２００４年（平成１６年）２月１７日の「富山新聞」に発表

(71) 出願人　391022315
株式会社カイスイマレン
富山県高岡市吉久１丁目２番４８号
(72) 発明者　能松　豊
富山県高岡市吉久１丁目２番４８号　株式会社カイスイマレン内

Fターム（参考）　2B104 CG20
3F079 AC02 BA01 BA13 CA09 CB02 CC07 DA06

(54) 【発明の名称】魚類選別台

(57)【要約】　（修正有）
【課題】選別作業の能率化と作業空間の有効利用、及び衛生面の向上を目指した魚類選別台を提供することにある。
【解決手段】選別台板１と、該台板を支える支持脚７とを備え、選別台板は平板部１２の上側外周囲に防魚堤４を、下側に脚係止部３５を備え、防魚堤の数箇所に魚類取出口１０と、該取出口の開閉口手段５とを備え、開閉口手段として、取出口側堤部の一方に収納部１５を、他方に受け部２５を備え、収納部内に遮蔽板６の基部６ｂを支承する上下揺動式手段５１Ａを備え、支持脚は上側に台板載置部７２と、前記脚係止部に係合する被係止部７３とを備え、上下に積み重ねが可能となるように下向きに広く開口しており、遮蔽板を一方取出口側堤部側に回動した時、収納部内に挿入して取出口を開口し、他方取出口側堤部側に回動した時、遮蔽板先部６ａが受け部に挿入して取出口を閉鎖している。
【選択図】図１－１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
一定の広さを有する選別台板（１）と、該台板（１）を下から支える支持脚（７）とを備え、選別台板（１）は平板部（１３）の上側外周囲に魚類の流出を阻止する防魚堤（４）を、下側に脚係止部（１５）を備え、防魚堤（４）と平板部（１３）の少なくとも１箇所に魚類の取出口（１０）と、該取出口（１０）の開閉口手段（５）とを備えていることを特徴とする魚類選別台。
【請求項２】
取出口（１０）に対する開閉口手段（５）は、防魚堤（４）に軸支した遮蔽板（６）の回動にて開閉する堤軸支式手段（５Ａ）と、遮蔽板（６）の摺動にて開閉するスライド式手段（５Ｂ）と、遮蔽板（６）の嵌脱にて開閉する嵌脱式手段（５Ｃ）と、平板部（１３）に軸支した遮蔽板（６）の回動にて開閉する平板軸支式手段（５Ｄ）との何れか一方であることを特徴とする請求項１記載の魚類選別台。
【請求項３】
堤軸支式手段（５Ａ）は、取出口側堤部（４１，４２）の一方に収納部（４３）を、他方に受け部（４４）を備え、収納部（４３）と受け部（４４）は上向きに、且つ取出口（１０）に向けて開口し、収納部（４３）内に遮蔽板基部（６ｂ）を横軸（６０）にて支承する上下揺動式手段（５１Ａ）であり、遮蔽板（６）を一方取出口側堤部（４１）側に回動した時、収納部（４３）内に挿入して取出口（１０）を開口し、他方取出口側堤部（４２）側に回動した時、遮蔽板先部（６ａ）が受け部（４４）に挿入して取出口（１０）を閉鎖していることを特徴とする請求項２記載の魚類選別台。
【請求項４】
選別台板（１）は上側部材（１１）と下側部材（１２）とから成る二重構造式台板（１Ａ）であり、上側部材（１１）は平板部（１３）の上側外周囲に防魚堤（４）を備え、下側部材（１２）は上側部材（１１）を裏面から均等に支持する支持部（２１）と、上側部材（１１）の外周部に重なる固定部（２２）と、脚係止部（１５）とを備え、支持部（２１）と固定部（２２）とを上側部材（１１）に着接していることを特徴とする請求項１，２または３記載の魚類選別台。
【請求項５】
支持脚（７）は脚壁（７１）の上側に台板載置部（７２）と、選別台板（１）の脚係止部（１５）に係合する被係止部（７３）とを備え、脚壁（７１）は補強リブ（７５）を設け、上下に積み重ねが可能となるように下向きに広く開口していることを特徴とする請求項１，２，３または４記載の魚類選別台。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この本発明は、漁船より岸壁や漁港に陸揚げされた魚介類を、数人で魚種別に、或は同種の魚介類を大きさ別に選別する際に用いる魚類選別台に関する。
【背景技術】
【０００２】
漁船による漁は、特定の魚種、例えばイカ、カニ、サンマ、イワシ、タラ、サケ、サバ、マグロ、タイ等の漁獲を目的に行われるが、目的以外の魚種も漁獲される。特に底引き網による漁では、多種類の魚種が漁獲される。大型漁船やトロール船にあっては、魚種の自動選別装置を備えるものもあるが、中小漁船にあっては、船内で人手により大まかに区分けしたり、漁港等に陸揚げした後に区分けしていた。
漁獲された多種類の魚種中に、珍味な魚や高級魚も含まれていることがあるし、同種魚であっても、大小があったり、傷がついていたりするので、これを人手で選別する必要があった。
【０００３】
魚種等の選別の多くは、陸揚げ場の岸壁や漁港において複数の空箱を準備し、例えば、

第一空箱に大きい魚を、第二空箱に中くらいの魚を、第三空箱に小さい魚を区別して入れるか、競場の床面において大中小に区別していた。

また、漁港等の近くに木製の固定選別台を設置し、該選別台の上に漁獲した雑多な魚を載せ、これを数人の人手にて選別する場合もあった。

【特許文献１】特開平１０－２２９７８０号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

しかしながら、自動選別装置は高価であるにも拘わらず、魚種選別ができず、しかも傷つきやすい問題点があった。陸揚げ漁港（岸壁）における選別は、少量の選別に適するも、大漁の選別には不適であった。また、木製固定選別台における選別は、陸揚げ漁港における選別より能率的であるも、陸揚げ位置が複数ある漁港にあっては、固定選別台を複数配置する必要があり、その固定選別台によって作業空間が占有される問題点があると共に、木製であるためささくれが生じ、ささくれにて魚や手指を傷つける問題点もあった。

そこで本発明は上記の事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、選別作業の能率化と作業空間の有効利用、及び衛生面の向上を目指した魚類選別台を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

本発明の魚類選別台は、請求項１として、一定の広さを有する選別台板と、該台板を下から支える支持脚とを備え、選別台板は平板部の上側外周囲に魚類の流出を阻止する防魚堤を、下側に脚係止部を備え、防魚堤と平板部の少なくとも１箇所に魚類の取出口と、該取出口の開閉口手段とを備えている。

請求項２は、請求項１の魚類選別台において、取出口に対する開閉口手段は、防魚堤に軸支した遮蔽板の回動にて開閉する堤軸支式手段と、遮蔽板の摺動にて開閉するスライド式手段と、遮蔽板の嵌脱にて開閉する嵌脱式手段と、平板部に軸支した遮蔽板の回動にて開閉する平板軸支式手段との何れか一方である。

【０００６】

請求項３は、請求項２の魚類選別台において、堤軸支式手段は、取出口側堤部の一方に収納部を、他方に受け部を備え、収納部と受け部は上向きに、且つ取出口に向けて開口し、収納部内に遮蔽板基部を横軸にて支承する上下揺動式手段であり、遮蔽板を一方取出口側堤部側に回動した時、収納部内に挿入して取出口を開口し、他方取出口側堤部側に回動した時、遮蔽板先部が受け部に挿入して取出口を閉鎖している。

請求項４は、請求項１，２，３の魚類選別台において、選別台板は上側部材と下側部材とから成る二重構造式台板であり、上側部材は平板部の上側外周囲に防魚堤を備え、下側部材は上側部材を裏面から均等に支持する支持部と、上側部材の外周部に重なる固定部と、脚係止部とを備え、支持部と固定部とを上側部材に着接している。

請求項５は、請求項１，２，３，４の魚類選別台において、支持脚は脚壁の上側に台板載置部と、選別台板の脚係止部に係合する被係止部とを備え、脚壁は補強リブを設け、上下に積み重ねが可能となるように下向きに広く開口している。

【０００７】

ここで選別台板とは、矩形状を成す平板部の上側外周囲に囲い部を設け、下側に脚係止部を有するものを言い、具体的には、上側部材の裏側に下側部材を着接した二重構造式台板と、上側部材の裏側に補強部材を着接した補強式台板とがあるが、一定量の魚類を溢れ出ないように収容するものであれば形状は自由である。

ここで上側部材とは、平板部の外周囲に防魚堤を設けるものを言い、下側部材とは、平板部を平滑に保つ支持部と、上側部材に着接する固定部とを備えるものを言う。

ここで脚係止部とは、選別台板の裏側二箇所に支持部と共に設けるもので、支持脚と嵌脱自在で、且つ嵌合状態において安定な凹部を言う。

ここで取出口とは、防魚堤や平板部の任意切欠部を言い、その切欠部から外部への魚類

の排出を滑らかにする所を言う。
【０００８】
ここで開閉口手段の堤軸支式手段とは、上下揺動可能に軸支する上下揺動式手段と、水平旋回可能に軸支する水平旋回式手段とを言い、スライド式手段とは、防魚堤から出し入れする左右スライド式手段と、平板部に対して昇降する上下スライド式手段とを言い、嵌脱式手段とは、上下嵌脱式手段と前後嵌脱式手段とを言い、平板軸支式手段とは、平板部の一部に軸支する堤開閉式手段と平板開閉式手段とを言うが、取出口を開閉し得るものであれば、その手段は自由である。
ここで支持脚とは、選別台板を下から支えるもので、二体一組で使用するものを言い、特に下向きに広く開口する空部を備え、周壁に補強リブを備えることにより軽量化を図り、且つ、積み重ねを可能することが望ましい。
又、支持脚の下側に、高さ調整手段（ジャッキー、滑り止めを兼ねた接地部）を備えておけば、選別者の背丈に応じて台高さを加減し得る。
ここで被係止部とは、選別台板の脚係止部と嵌脱自在で、且つ嵌合状態において安定な突部を言うが、上記目的を達するものであれば形状は自由である。
【発明の効果】
【０００９】
本発明による魚類選別台は上記構造のとおりであるから、次に記載する効果を奏する。
請求項１の魚類選別台は、選別台板と、これを支える支持脚とから構成するものであるから、陸揚げに近い岸壁や漁港、或は競場等の適所に持ち運び、適所で組立て魚類を選別し得る。選別作業の終了後、分離してコンパクトに保管、又は格納しておける。このことにより、岸壁や漁港、或は競場等の作業空間を有効に使用できる。また、支持脚と選別台板との組立て分離は、工具等を用いずに簡単容易に、且つ安定状態で行える。
請求項２と請求項３の魚類選別台は、請求項１の特徴に加えて、開閉口手段として堤軸支式手段の内、遮蔽板基部を横軸にて支承する上下揺動式手段を採用しているので、遮蔽板を一方縦溝部側に回動するだけで取出口を開口し得るし、反対に他方縦溝部側に回動するだけで、取出口を閉鎖しえる。即ち、取出口の開閉が実に簡単容易である。
【００１０】
請求項４の魚類選別台は、請求項１，２，３の特徴に加えて、選別台板として、上側部材と下側部材とから成る二重構造式台板を採用しているので、負荷加重や耐久力が向上し、例え一度に大量の魚類を投入しても変形することがない。即ち、漁港等で荒っぽく使用しても、丈夫で長持ちする。しかも、製造も簡単容易になる。
請求項５の魚類選別台は、請求項１，２，３，４の特徴に加えて、支持脚の脚壁は下向きに広く開口しているので、上下に積み重ねておける。その結果、コンパクトに保管輸送し得る。しかも補強リブを備えているので、加重に対しても強い。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１１】
本発明による魚類選別台の最良形態を図１－１～図１－４に基づき説明すれば、選別台板１と、該台板１を下から支える支持脚７とを備え、選別台板１は上側部材１１と、上側部材１１を裏面から均等に補強する下側部材１２とから成る二重構造式台板１Ａであり、その内、上側部材１１は矩形状の平板部１３の上側外周囲に魚類の流出を阻止する防魚堤４を備え、防魚堤４の任意個所に魚類の取出口１０と、該取出口１０の開閉口手段５とを備え、下側部材１２は図９－１～図９－３の如く、上側部材１１の裏面に当設する支持部２１と、上側部材１１の外周部に重なる固定部２２と、下向きに開口する脚係止部１５とを設け、支持部２１と固定部２２とを上側部材１１の裏面に着接して一体化するものであり、支持脚７は図１０－１～図１０－４の如く、適宜高さを有する脚壁７１の上側に台板載置部７２と、脚係止部１５に係合する被係止部７３を、下側に接地部７４を備え、且つ脚壁７１に手掛け部７６と、荷重方向に対する補強リブ７５とを備え、積み重ねが可能となるように下向きに広く開口している。
【００１２】

取出口１０の開閉口手段５として、図１－５～図１－７の如く防魚堤４に遮蔽板６を軸支持する堤軸支式手段５Ａの内、防魚堤４の一方取出口側堤部４１に遮蔽板６を上下揺動自在に軸支持する上下揺動式手段５１Ａを採用し、この上下揺動式手段５１Ａは、一方取出口側堤部４１に遮蔽板長さＨと遮蔽板厚さｈより僅かに大きい収納部４３を、他方取出口側堤部４２に遮蔽板先部６ａの受け部４４を備え、収納部４３と受け部４４は共に上向きに、且つ取出口１０に向けて開口し、収納部４３に遮蔽板６の基部６ｂを挿入し、該基部６ｂと一方取出口側堤部４１とに跨って横軸６０を挿通し、横軸６０を支点として上下揺動可能となるものである。

遮蔽板６を一方取出口側堤部４１側に回動し、図１－５の如く収納部４３に収まるまで深く回動することで取出口１０が開口し、その遮蔽板６を他方取出口側堤部４２側に向けて回動し、図１－６の如く遮蔽板先部６ａが受け部４４に収まることで取出口１０が閉鎖する。

【実施例１】

【００１３】

開閉口手段５の形態例を以下に説明すると、図２－１～図２－３は、堤軸支式手段５Ａの内、防魚堤４の一方取出口側堤部４１に、遮蔽板６を縦軸５０にて支承した水平旋回式手段５２Ａであり、この水平旋回式手段５２Ａは防魚堤４の取出口側堤部４１，４２の平板部１３側に切欠部４５ａ，４６ａを設け、その外側に薄肉部４５ｂ，４６ｂを形成するものであり、切欠部４５ａ，４６ａは天壁４ａ，４ｂを残して平板部１３まで切欠し、一方の天壁４ａと平板部１３との間に遮蔽板基部６ｂを挿入し、これを縦軸５０にて支承し、縦軸５０を支点として水平旋回可能となるものであり、図２－２と図２－３の如く遮蔽板６を一方取出口側堤部４１側に回動し、一方薄肉部４５ｂに重ねることで取出口１０は開口し、図２－１の如く遮蔽板６を他方取出口側堤部４２側に回動し、遮蔽板先部６ａを他方薄肉部４６ｂに当接することで取出口１０は閉鎖する。

【実施例２】

【００１４】

図３－１～図３－３は、遮蔽板６を摺動して開閉するスライド式手段５Ｂであり、その第一実施例の遮蔽板６を防魚堤４の長手方向に摺動する左右スライド式手段５１Ｂである。

左右スライド式手段５１Ｂを上下揺動式手段５１Ａと相違する点について説明すれば、一方取出口側堤部４１に収納部４３を、他方取出口側堤部４２に受け部４４を備え、遮蔽板６を収納部４３に収まるまで摺動することで取出口１０は開口し、他方取出口側堤部４２に向け手摺動し、図３－１の如く受け部４４に収まることで取出口１０は閉鎖する。

【実施例３】

【００１５】

図４－１～図４－３は、スライド式手段５Ｂの第二実施例で、遮蔽板６を取出口１０に対して昇降する上下スライド式手段５２Ｂである。

上下スライド式手段５２Ｂを第一実施例と相違する点について説明すれば、取出口１０に縦貫通長孔５４を設け、取出口側堤部４１，４２に遮蔽板６の案内溝４７，４８を相対設し、案内溝４７，４８の下側に下降制限部４７ａ，４８ａを設け、防魚堤高さＳより僅かに長い遮蔽板６の上側に下降制限部４７ａ，４８ａに当接する腕部６ｄを設け、上下動自在に嵌挿するものであり、図４－３の如く遮蔽板６の腕部６ｄが案内溝４７，４８の下降制限部４７ａ，４８ａに当接するまで下降した時、遮蔽板６の上面が平板部１３と面一となり、取出口１０を開口し、図４－２の如く縦貫通長孔５４より垂下した遮蔽板６の下側を押し上げ、所定の位置まで上昇した所で閉鎖維持手段９により降下を阻止し、取出口１０は閉鎖する。

【実施例４】

【００１６】

図５－１と図５－２は、遮蔽板６を嵌脱して開閉する嵌脱式手段５Ｃであり、その第一実施例の遮蔽板６を取出口１０の上側から嵌脱する上下嵌脱式手段５１Ｃである。

上下嵌脱式手段５１Ｃを堤軸支式手段５Ａ、及びスライド式手段５Ｂと相違する点について説明すれば、取出口側堤部４１，４２に案内溝４７，４８を相対設し、図５－２の如く遮蔽板６を案内溝４７，４８に添って降下挿入し、平板部１３に当接するまで挿入することで取出口１０は閉鎖し、その状態から遮蔽板６を案内溝４７，４８に添って上昇し、取外すことで取出口１０は開口する。

この上下嵌脱式手段５１Ｃにあっては、遮蔽板６を例えば一方取出口側堤部４１に紐Ｒで取付けておくと紛失の恐れがないし、取出口１０より取外した遮蔽板６を、例えば選別台板１の外側に垂下げておくことができる。

【実施例５】

【００１７】

図６－１と図６－２は、嵌脱式手段５Ｃの第二実施例であり、且つ取出口１０に対して前後方向より嵌脱する前後嵌脱式手段５２Ｃである。

前後嵌脱式手段５２Ｃを第一実施例と相違する点について説明すれば、取出口１０を平板部１３に向けて広口となるように形成し、取出口側堤部４１，４２の堤部端面４１ａ，４２ａの少なくとも外寄り部に傾斜端面４１ｂ、４２ｂを設け、遮蔽板６の両側面に堤部傾斜端面４１ｂ、４２ｂに対応する被傾斜面６ｅを備え、

図６－１の如く取出口１０の閉鎖時に、傾斜端面４１ｂ、４２ｂと遮蔽板被傾斜面６ｅとが当接する。

【実施例６】

【００１８】

図７－１と図７－２は、開閉口手段５の内、遮蔽板６を平板部１３の一部に軸支する平板軸支式手段５Ｄであり、その第一実施例の遮蔽板６を取出口１０より外側の平板部１３に軸支する堤開閉式手段５１Ｄである。

堤開閉式手段５１Ｄを説明すれば、水平旋回式手段５２Ａと反対に、取出口側堤部４１，４２の外部側に切欠部４５ａ，４６ａを、平板部１３側に薄肉部４５ｂ，４６ｂを設け、取出口１０より外側の平板部１３に支承部１４を備え、遮蔽板６は薄肉部４５ｂ，４６ｂに当接する遮蔽部６ｃと、支承部１４に横軸６０で軸支する基部６ｂとを段違いに設け、横軸６０を中心にして上下揺動可能となるものであり、図７－１の如く取出口１０の閉鎖時に、遮蔽部６ｃは薄肉部４５ｂ，４６ｂに当接し、図７－２の如く取出口１０は開口時に、遮蔽部６ｃは取出口１０より外側の下方に回動している。

【実施例７】

【００１９】

図８－１～図８－３は、平板軸支式手段５Ｄの第二実施例であり、防魚堤４より内側の平板部１３に軸支する平板開閉式手段５２Ｄである。

平板開閉式手段５２Ｄを第一実施例と相違する点について説明すれば、平板部１３の防魚堤４側に上下方向に貫通する平板取出口１０を設け、該取出口１０側の裏面に支承部１４を備え、遮蔽板６は取出口１０より一回り小さく、その基部６ｂを支承部１４に横軸６０で軸支し、横軸６０を中心にして上下揺動可能となるものであり、図８－１の如く取出口１０の閉鎖時に、遮蔽板６は平板部１３と面一となるまで上向きに回動した所で閉鎖維持手段９により降下を阻止し、図８－２と図８－３の如く取出口１０の開口時に、遮蔽板６は支承部１４より下方に向けて垂下する。

【実施例８】

【００２０】

本発明による魚類選別台の実施例を、最良形態と相違する点について説明すると、選別台板１は上側部材１１の裏面に補強部材２０を着設する補強式台板１Ｂであり、補強式台板１Ｂの補強部材２０は図１１－１の如く縦桟部２３と横桟部２４とを適宜間隔で井桁状に連続し、縦桟部２３と横桟部２４との間に、下向きに開口する脚係止部１５を形成するものである。

補強部材２０を構成する縦桟部２３と横桟部２４は、角棒状や図１１－２（イ）の如く角筒状を成し、その上面を上側部材１１の裏面に着接して一体化するか、図１１－２（ロ

）の如くリップ溝型状を成し、リップを上側部材１１の裏面に着接して一体化するものである。
【産業上の利用可能性】
【００２１】
支持脚７の下側に高さ調整手段８を取付ければ、選別台板１の高さを使用現場に合わせて変更し得る。高さ調整手段８として、図１４の如く嵩上げ式手段８Ａと図１５の如くジャッキー式手段８Ｂとを用いる。
その内、嵩上げ式手段８Ａは接地体８１に支持脚接地部７４に設けた雌ねじ部７ａに連通する貫通孔８２を備え、接地体貫通孔８２より接地部７４の雌ねじ部７ａに螺入する固定ボルト８３にて固定するものであり、接地体厚さｔを選択して固定することで、選別台板１の高さを可変するものである。
ジャッキー式手段８Ｂは、ねじ棒８６を直立した接地体８５と、ねじ棒８６に螺合する手動ナット８７とから成り、ねじ棒８６を接地部７４の抜き孔７ｂに相通し、選別台板１の自重によって手動ナット８７に載置しており、手動ナット８７の昇降にて可変高さＴを調整するものである。
【００２２】
上下スライド式手段５２Ｂにおける遮蔽板６の閉鎖維持手段９として、例えば図４－２の如く遮蔽板６の上昇状態において、遮蔽板６の腕部６ｄより下方の案内溝４７，４８にピン９２を挿通するか、図１３の如く遮蔽板６の上側に設けたスライド片９３を取出口側堤部４１，４２に設けたガイド４９までスライドするものである。（ガイド４９とスライド片９３とを反対に設けることも可能）
また、図６－１の如く前後嵌脱式手段５２Ｃにおいて、遮蔽板６の両側面にノッチ９１を設け、このノッチ９１を堤部端面４１ａ，４２ａの対抗面に設けた端面凹部４１ｃ，４２ｃに係止する。（ノッチ９１と凹部４１ｃ，４２ｃとを反対に設けることも可能）
更に、平板開閉式手段５２Ｄにおいて、例えば遮蔽板６の閉鎖回動時にノッチ９１を後退し、閉鎖完了時にノッチ９１が復帰して下降を阻止し、遮蔽板６の開口時に、ノッチ９１を強制的に後退し、係止状態を開放することも可能である。
【００２３】
遮蔽板６に開閉操作を容易にする操作補助手段３を設けることが好ましい。例えば上下揺動式手段５１Ａにあっては、遮蔽板６の軸支位置を、遮蔽板６の中心より上側に偏心して軸支し、収納部４３に上段部４３ａを備えておくことで、遮蔽板６の一部を収納部４３より上側に露出する露出部３１とし、この露出部３１を把持して閉鎖回動し得るようにする。
左右スライド式手段５１Ｂにあっては、図３－２と図３－３の如く、一方取出口側堤部４１に収納部４３から外部に連通する横貫通長孔５３を備え、遮蔽板６の基部６ｂに、横貫通長孔５３を貫通して外部に露出する把握部３２を設け、この把握部３２を把持してスライドする。
各開閉口手段５において、遮蔽板６の一部に窪み３３を設け、この窪み３２を利用して開閉することも可能であるし、遮蔽板６に摘み３４を取付け、摘み３４を把持して開閉することも可能である。
【００２４】
開閉口手段５は、堤軸支式手段５Ａとスライド式手段５Ｂと嵌脱式手段５Ｃと平板軸支式手段５Ｄとに限定されるものではなく、取出口１０を簡単に開閉し得るものであれば、その形態は自由である。
例えば、堤軸支式手段５Ａの上下揺動式手段５１Ａにおいて、図１２の如く一方取出口側堤部４１の平板部１３側に遮蔽板６を横軸６０で片持ち支持し、横軸６０を中心にして揺動することで、取出口１０を開閉することも可能である。
選別台板１を構成する上側部材１１と下側部材１２、又は上側部材１１と補強部材２０、及び選別台板１を支える支持脚７は、合成樹脂製、特にＦＲＰにて形成することが望ましい。

選別台板１の台板幅Ｌは２００～１２０ｃｍが好ましいが、両側から作業できる範囲であれば自由であるし、取出口間隔Ｐは３０～１００ｃｍが好ましいが、隣の作業員とぶつからない範囲であれば自由である。

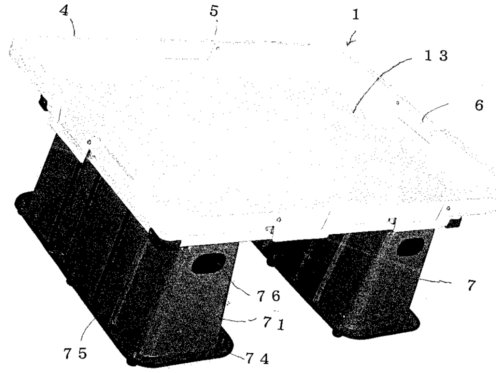
【図面の簡単な説明】

【００２５】

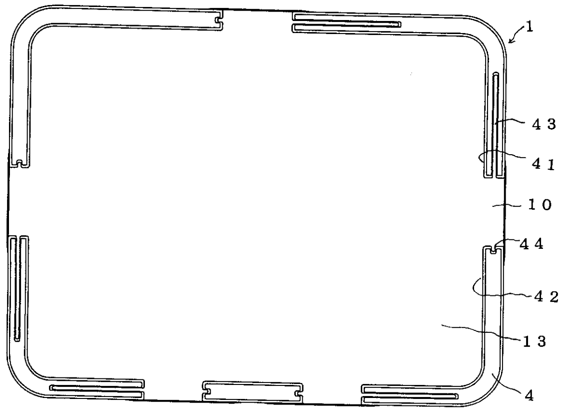
【図１－１】本発明による魚類選別台の最良形態を示す斜視図である。
【図１－２】選別台板の平面図である。
【図１－３】選別台板の正面図である。
【図１－４】選別台板の斜視図である。
【図１－５】開閉口手段の内、最良形態の堤軸支式手段（上下揺動式手段）を示す要部平面図である。
【図１－６】その閉鎖時の要部縦断面図である。
【図１－７】開口時の要部縦断面図である。
【図２－１】堤軸支式手段（水平旋回式手段）の閉鎖時における要部平面図である。
【図２－２】その開口時の要部横断面図である。
【図２－３】その開口時の要部縦断面図である。
【図３－１】スライド式手段の第一実施例（左右スライド式手段）における閉鎖時の要部横断面図である。
【図３－２】その開口時の要部横断面図である。
【図３－３】開口時の要部縦断面図である。
【図４－１】スライド式手段の第二実施例（上下スライド式手段）における要部平面図である。
【図４－２】閉鎖時の要部縦断面図である。
【図４－３】開口時の要部縦断面図である。
【図５－１】嵌脱式手段の第一実施例（上下嵌脱式手段）における閉鎖時の要部平面図である。
【図５－２】その開口時の要部縦断面図である。
【図６－１】嵌脱式手段の第二実施例（前後嵌脱式手段）における閉鎖時の一部切欠平面図である。
【図６－２】その開口時の要部平面図である。
【図７－１】平板軸支式手段の第一実施例（堤開閉式手段）における閉鎖時の要部平面図（イ）と正面図（ロ）と断面図（ハ）である。
【図７－２】その開口時の要部平面図（イ）と正面図（ロ）と断面図（ハ）である。　い断面図である。
【図８－１】平板軸支式手段の第二実施例（平板開閉式手段）における閉鎖時の要部縦断面図である。
【図８－２】その開口時の要部縦断面図である。
【図８－３】開口時の一部切欠平面図である。
【図９－１】下側部材の底面図である。
【図９－２】そのＡ－Ａ断面図である。
【図９－３】その斜視図である。
【図１０－１】支持脚の斜視図である。
【図１０－２】その平面図である。
【図１０－３】その正面図である。
【図１０－４】その側面図である。
【図１１－１】補強部材の斜視図である。
【図１１－２】補強部材の形状例を示す要部斜視図である。
【図１２】類例上下揺動式手段の開口時と閉鎖時の要部平面図である。
【図１３】類例上下スライド式手段の一部切欠正面図である。
【図１４】高さ調整手段の内、嵩上げ式を示す一部切側欠側面図である。

【図１５】高さ調整手段の内、ジャッキー式を示す一部切側欠側面図である。
【符号の説明】
【００２６】
　１　選別台板、１Ａ　二重構造式台板、１Ｂ　補強式台板
　１１　上側部材、１２　下側部材、１３　平板部、１４　支承部、１５　脚係止部
　２０　補強部材、２１　支持部、２２　固定部、２３　縦桟部、２４　横桟部
　３　操作補助手段、３１　露出部、３２　把握部、３３　窪み、３４　摘み
　４　防魚堤、４ａ，４ｂ　天壁
　４１，４２　取出口側堤部
　４１ａ，４２ａ　堤部端面、４１ｂ，４２ｂ　傾斜端面、４１ｃ，４２ｃ　端面凹部
　４３　収納部、４３ａ　段部、４４　受け部
　４５ａ，４６ａ　切欠部、４５ｂ，４６ｂ　薄肉部
　４７，４８　案内溝、４７ａ，４８ａ　下降制限部、４９　ガイド
　５　開閉口手段
　５Ａ　堤軸支式手段、５１Ａ　上下揺動式手段、５２Ａ　水平旋回式手段
　５Ｂ　スライド式手段、５１Ｂ　左右スライド式手段、５２Ｂ　上下スライド式手段
　５Ｃ　嵌脱式手段、５１Ｃ　上下嵌脱式手段、５２Ｃ　前後嵌脱式手段
　５Ｄ　平板軸支式手段、５１Ｄ　堤開閉式手段、５２Ｄ　平板開閉式手段
　５３　横貫通長孔、５４　縦貫通長孔
　６　遮蔽板、６ａ　先部、６ｂ　基部、６ｃ　遮蔽部、６ｄ　腕部、６ｅ　被傾斜面
　５０　縦軸、６０　横軸
　７　支持脚、７ａ　雌ねじ部、７ｂ　抜き孔
　７１　脚壁、７２　台板載置部、７３　被係止部、７４　接地部、７５　補強リブ
　７６　手掛け部
　８　高さ調整手段、８Ａ　嵩上げ式手段、８Ｂ　ジャッキー式手段
　８１，８５　接地体、８２　貫通孔、８３　固定ボルト、８６　ねじ棒
　８７　手動ナット
　９　閉鎖維持手段、９１　ノッチ、９２　ピン、９３　スライド片
　１０　取出口
　Ｒ　紐
　Ｈ　遮蔽板長さ、ｈ　遮蔽板厚さ
　Ｔ　可変高さ、ｔ　接地体厚さ
　Ｌ　台板幅、Ｐ　取出口間隔
Ｓ　防魚堤高さ

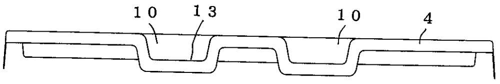
【図1－1】



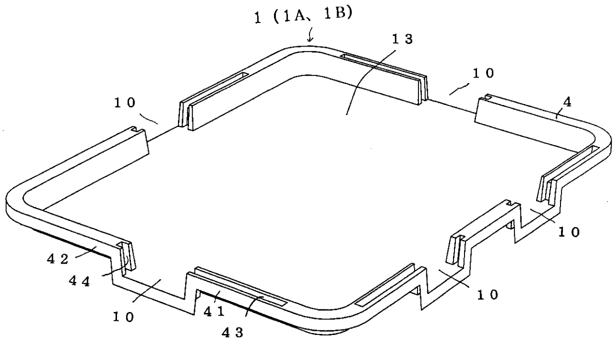
【図1－2】



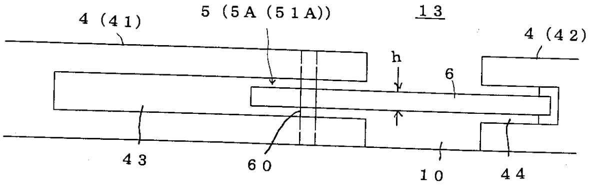
【図1－3】



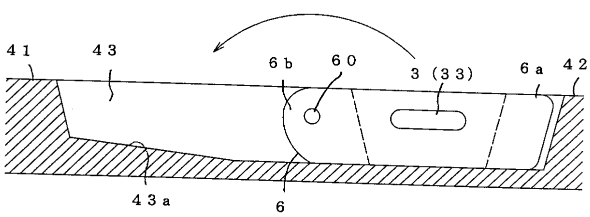
【図1－4】



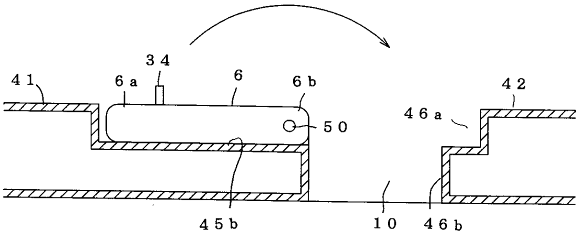
【図1－5】



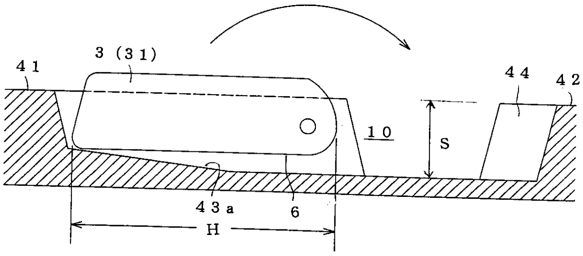
【図1－6】



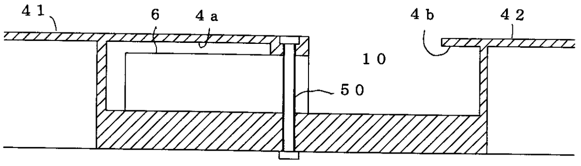
【図2－2】



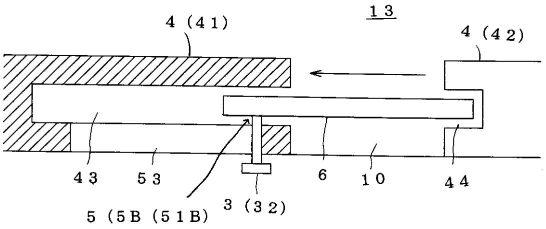
【図1－7】



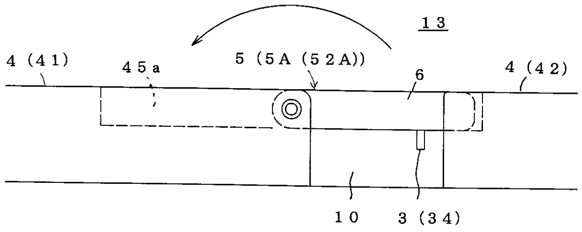
【図2－3】



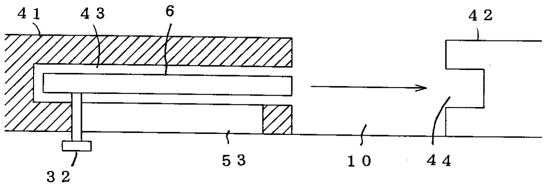
【図3－1】



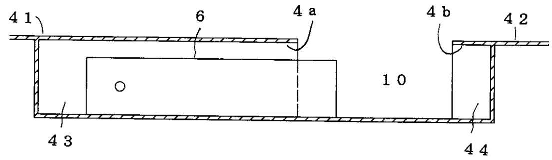
【図2－1】



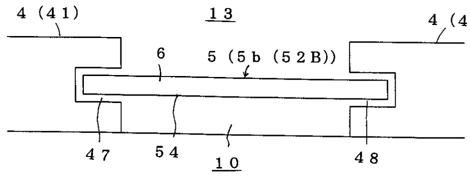
【図３－２】



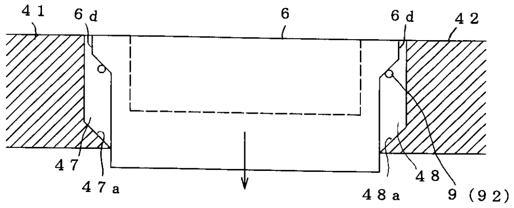
【図３－３】



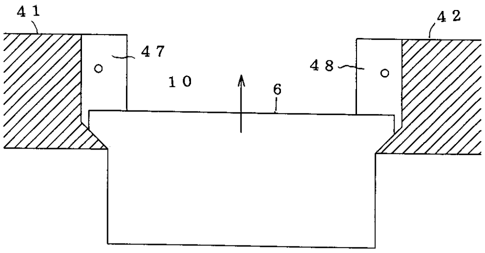
【図４－１】



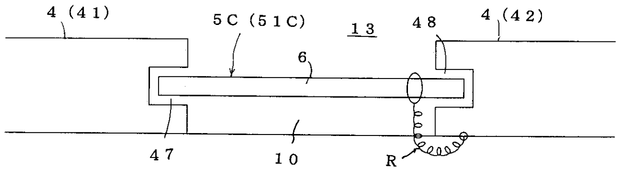
【図４－２】



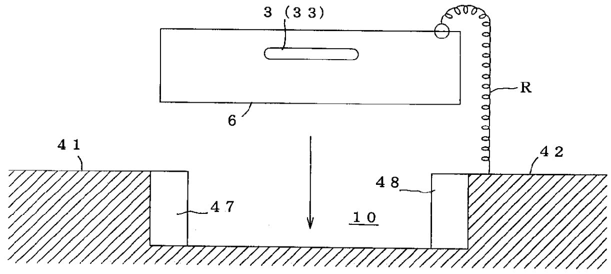
【図４－３】



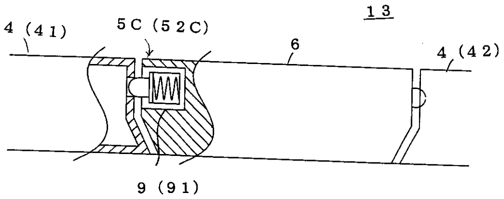
【図５－１】



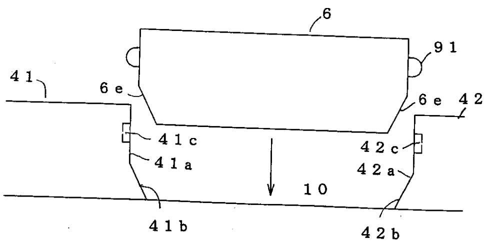
【図５－２】



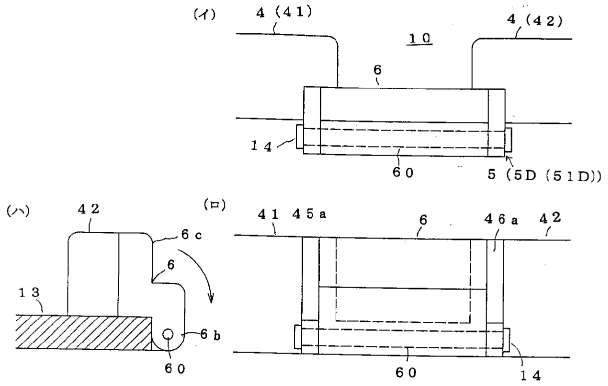
【図６－１】



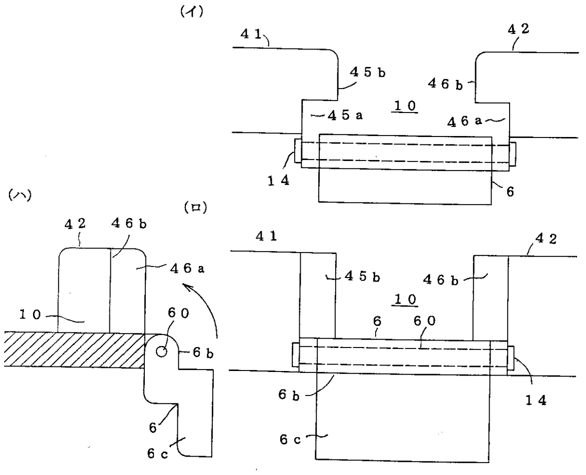
【図６－２】



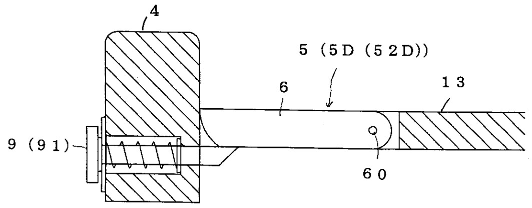
【図７－１】



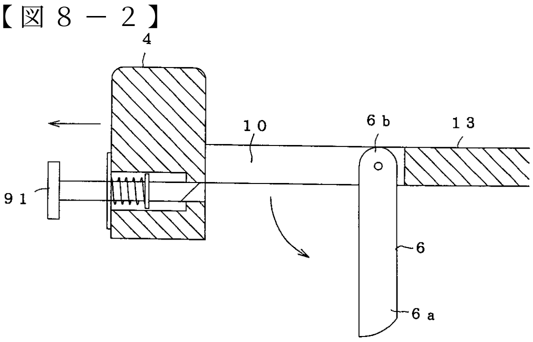
【図７－２】



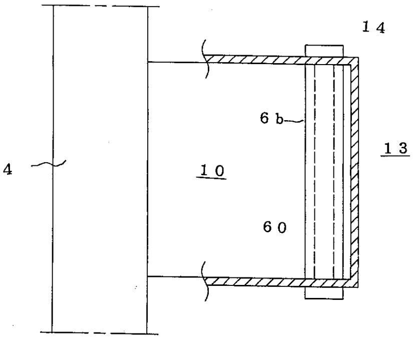
【図８－１】



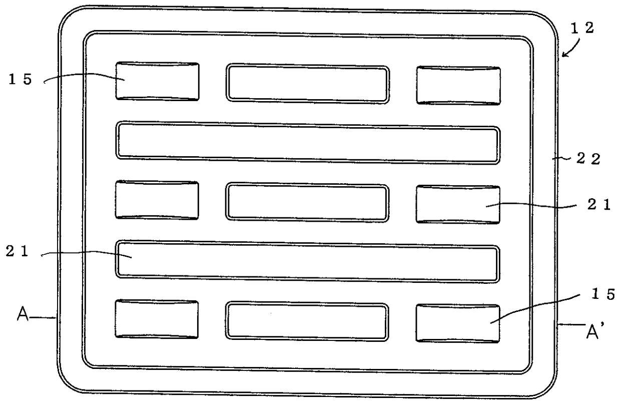
【図８－２】



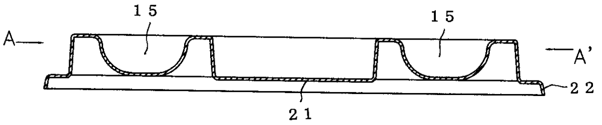
【図８－３】



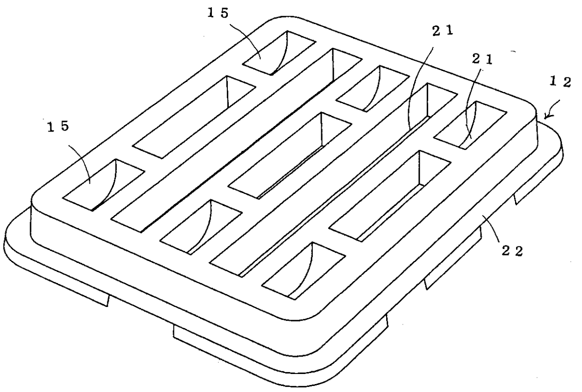
【図９－１】



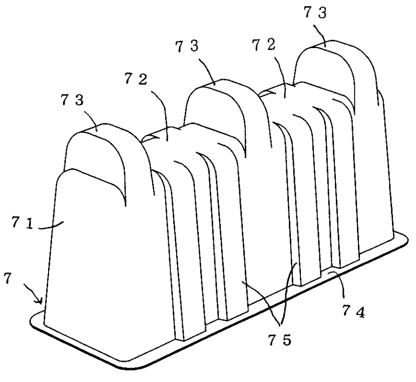
【図９－２】



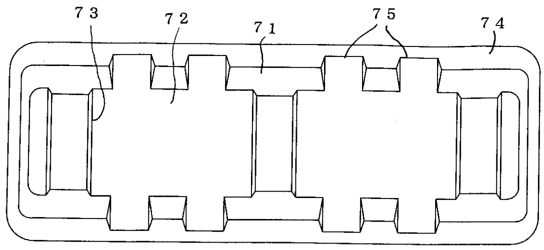
【図９－３】



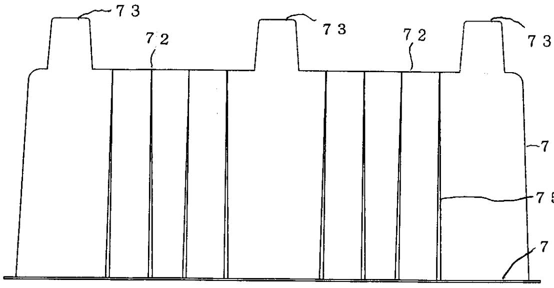
【図１０－１】



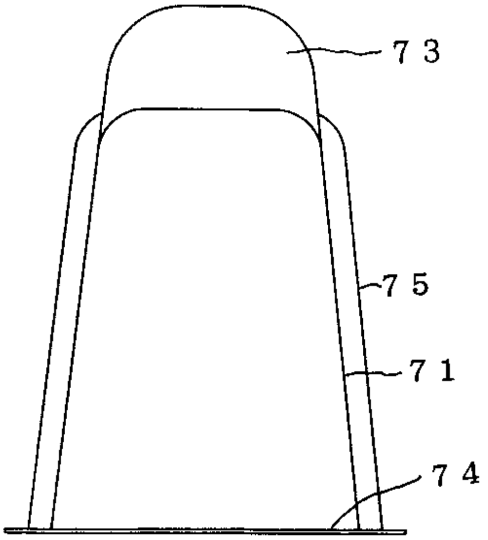
【図１０－２】



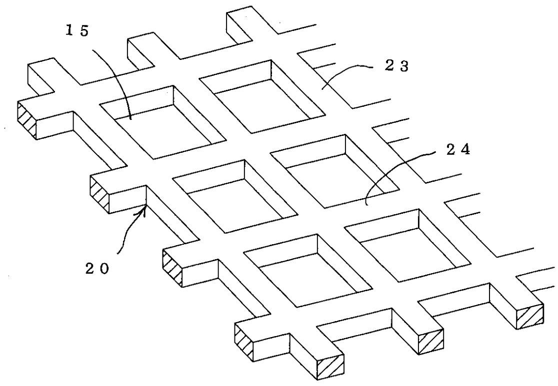
【図１０－３】



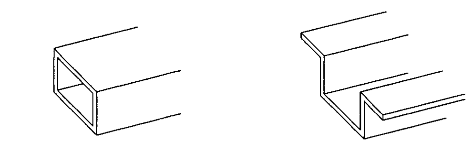
【図１０－４】



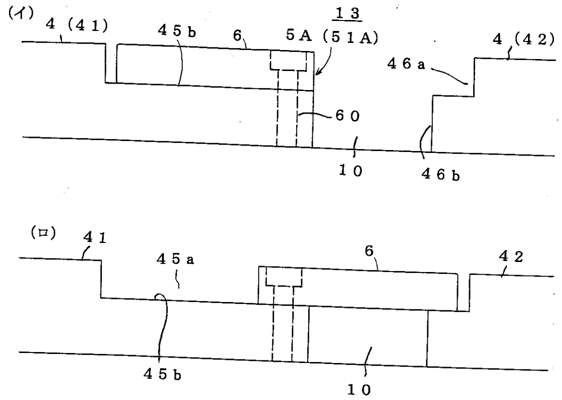
【図１１－１】



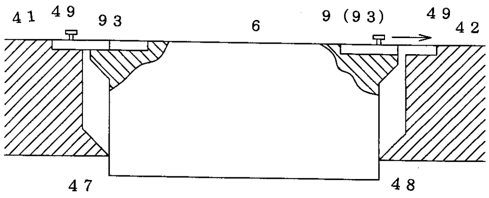
【図１１－２】



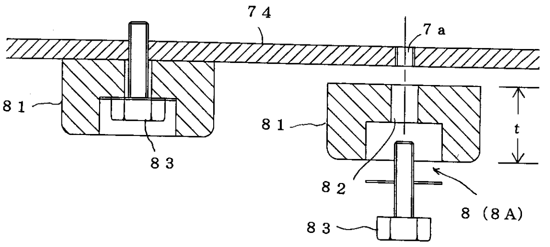
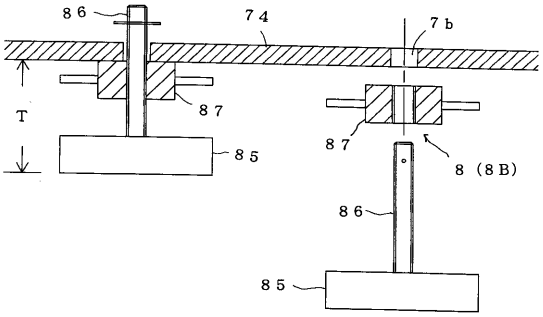
【図１２】



【図１３】



【図１４】



【図１５】